

第79回尼崎市文芸祭 審査結果【短歌】

| 審査結果     | 作品                               | 住所     | 氏名     |
|----------|----------------------------------|--------|--------|
| 一席(市長賞)  | ひとりでも母の力で開くように蓋も扉もしめるふるさと        | 福井市    | 中川 潔   |
| 二席(教育長賞) | たくさんの人に見られて孤独死もできぬパンダを独り哀しむ      | 尼崎市    | 和田 守玖子 |
| 三席(理事長賞) | 父の日といえども父は硫黄島永遠に軍服脱ぐことも無し        | 尼崎市    | 森本 和加子 |
| 朝日新聞社賞   | 燃ゆるごとわれを視ている暗き眼がしばしこの世のアマリリスとなり  | 尼崎市    | 和田 守玖子 |
| 神戸新聞社賞   | 雑多なる部屋にも秩序あるらしくハンガーの向きが違うと子の言う   | 尼崎市    | 原田 時子  |
| 産経新聞社賞   | 春の日におっとり溶けて欠伸かむ母の涙にひとりしたしむ       | 奈良市    | 和田 康   |
| 毎日新聞社賞   | 煮翮を食み終へ妻はその皿に標本のごと骨残しをり          | 大津市    | 船岡 房公  |
| 読売新聞社賞   | 耕した鍬の柄汗で汚れをり父の形見が納屋に掛けあり         | 宇陀市    | 渡辺 勇三  |
| ジュニア賞    | ペダルから足おろさずにこの坂を登り切れたら坂の支配者       | 光市     | 横道 玄   |
| ジュニア賞    | 梅の花もうすぐ咲くよ楽しみだおばあちゃんちに見に行くつもり    | 尼崎市    | 波多 希実  |
| ジュニア賞    | 白鯨太陽すら呑む教室は暗くて寒い深海のよう            | 神戸市    | 阿部 由乃  |
| 佳作       | 八十路過ぎ演技を習う友ありて我も新たな台本書かむ         | 尼崎市    | 渡邊 賢子  |
| 佳作       | ひとひらのサクラ花びらリビングに付いてきたんかこんなばあちゃんに | 尼崎市    | 浜畑 悦子  |
| 佳作       | 開くとき八分音符がポンポンとはじけたらうラッパ水仙        | 尼崎市    | 小野 さよ子 |
| 佳作       | ガラスペン握っていても書くことはないまま時間だけが過ぎゆく    | 尼崎市    | 二枝 紗莉惟 |
| 佳作       | ゴホゴホと慣れ親しんだ咳聞こえ角を曲がりて夫が帰り来       | 尼崎市    | 福岡 千佐子 |
| 佳作       | 横向きに寝かせ棺におさまりぬ海老のかたち曲がりし母は       | 尼崎市    | 頭本 信代  |
| 佳作       | いつかしら花水木咲く角とれて優しくなった吾子の記念樹       | 豊川市    | 波多野 有子 |
| 佳作       | 縁の下に嬉々ともぐりて生徒らほうぐいす張りの仕組習へり      | 豊中市    | 水野 正明  |
| 佳作       | 真夜中の床に落ちたる錠剤が円を描きてそして止まれり        | 名古屋市   | 清水 良郎  |
| 佳作       | ロシアにもウクライナにもあるといふバラライカの音かなしく聞こゆ  | 京都市    | 寺田 慧子  |
| 佳作       | 五月雨の痣として咲く紫陽花が星の痛みをまだ覚えている       | 熊本市    | 須藤 進乃助 |
| 佳作       | リノリウム様の床の軋みを憶えてるあふむけのまま運ばれし朝     | 有田郡広川町 | 澄田 広枝  |
| 佳作       | しくじった会話のあとは雨やどりしているように空を見上げる     | 大阪市    | 川田 ゆかる |
| 佳作       | 居眠りはシーソーのごと心地よい足がつかない足がつかない      | 入間市    | 大野 美波  |

※佳作以下の「入選」作品については文芸作品集に掲載されます。